

視聴覚に訴える安全活動に取り組んで

新城営林署 団子島製品事業所基幹作業職員 ○熊谷久司

(技) 熊崎裕文・前原正晴・森下俣志

(基) 斉藤忠久・丸山浅三・小川義信

はじめに

労働災害の絶滅を期して現場では、営林支局から出される「労働災害防止対策」、営林署で作成される「安全衛生活動実施要領」などにに基づき、様々な安全活動に取り組んでいるところですが、活動を進めて行くうえでの悩みとして、

- (1) 活動が班長など、特定の者になりやすい。
- (2) 毎日の繰り返しで、マンネリ化しやすい。
- (3) 文書などの指導は、読みづらくわかりにくい。
- (4) 自主的な安全活動になっていない。
- (5) 安全活動が目に見えてこない。

といったものを、日頃いただいており、何らかの対策が必要となっていました。

そこで、年度当初、事業所の事業説明のなかで、安全活動の柱が、「安全推進員を中心に、視聴覚に訴える安全活動」とすることを全員で決め、安全活動の活性化、組織的な安全活動、目に見える安全活動をめざしました。

具体的には

- (1) 手作り看板の作成
- (2) 団子島通信の発行
- (3) ビデオを活用した危険予知活動

の3点について取り組んできましたので、その内容を報告します。

具体的な取り組み

- (1) 手作り看板の作成

最近、国有林のPR看板を、今までのような既製のものでなく、職員の構想で、職員の手作りにより作成し、地域からも好評を得ているように、みんなで苦労して作った手作りの看板は、わかりやすく、又、見る人に強い印象を与えるものです。

そこで私たちも、立派とは言えないまでも、マンガを取り入れ、ベニヤ板で、手作りの安全

看板を作り、休憩小屋、盤台、林道など、目につく箇所に設置しました。(写真-1)

(2) 団子島通信の発行

営林支局や、営林署で発行される広報、又一般の商業新聞でも、自分たちに身近なもの程、親しみがああり、楽しく読み、頭にも残るものです。

そこで、63年度に主任が、安全の呼びかけ、お知らせなどをコピーし、配布していたものを、事業所の安全活動の一環として、発行体制を、安全推進員が、TBMなどの話題をメモしておき、その他安全のこと、行事日程などを含めて、事務所で編集、発行することにしました。

(写真-2)

(3) ビデオを活用した危険予知活動

最近、ビデオの普及には目ざましいものがあり、その活用も、家族の記念にとどまらず、スキー、野球などの技術向上にまで、一般的に使われています。

そこで、今年度ビデオカメラを購入したのを機に、「人の振りを見て、我が振り直す」だけでなく、「我が振り見て、我が振り直す」をモットーに、危険予知活動に取り組みました。

何と言っても、初めての取り組みでもあり、どのように活用したらよいか話し合うなかで、「まず、一人一人の作業動作を撮影し、安全懇談会の時、全員で見て意見を出し合おう」と決め、取り組んでみました。(写真-3)

結 果

以上、3つの活動を進めてきた成果を知るために、事業所で全員にアンケートを実施し、取り組みに対する意見、感想を取りまとめました。

まず、「手作り看板」についてですが、多くの意見、感想は

- 親しみを感じる。
- 文字なら長ったらしくなるのも、マンガならわかりやすい。
- 見ていて楽しくなる。
- ヨシ、今日も気をつけてやろうと思う。

など、大変好評で「目に見える安全運動」として効果があったと言えますが、

- 毎日見ていると、あまり感じなくなる。

という意見もあり、作りっぱなし、立てっぱなしではなく、きめ細かい対応が必要だといえます。

次に「団子島通信」について、出された意見、感想は

- わかりやすいし、忘れない。
- 身近なことなので、楽しく読み頭に残る。

○ 班がちがっても、共通の話題ができる。

○ もっと発行してほしい。

と評判もよく

○ みんなで原稿作りに協力を。

○ 安全日誌からも記事を拾っては。

など、「これからも続けて行こう」という気持ちが強く表われています。

最後に、「ビデオを活用した危険予知活動」についての意見、感想は

○ まだ十分活用したとは言えない。

○ 撮影に工夫を。

○ 同じ事業所の中で指摘し合うのは、やりにくい。

など、活動の不十分さを指摘する声の一方

○ 少しはずかしいが、自分の悪い所がわかって良い。

という意見も聞かれ、初めて取り組んだビデオということもあり、十分満足のいくものにはなりませんでしたが、活動に対する理解は得られたものと考え、技術面の向上を含め今後も取り組んで行く考えです。

今、現場ではこういった独自の活動の外、「TBMや新KYTの実施」「タッチアンドコールの実施」など、数多くの安全活動に取り組み、無災害をめざしています。

以上のように、「視聴覚に訴える安全活動」を、安全推進員が中心に、取り組んできた結果、ややもすると「班長がやればいい」「よそのことだから」と、なりがちな安全活動に全員が参加し、又、「わかりにくい」「めんどくさい」「マンネリ化する」と、言われる安全活動が、形となり、目に見えるものとなり、楽しくなり、活性化につながったと考えています。

私たちは、これからも「安全はだれのためでもない、自分のため」と、肝に銘じ、「視聴覚に訴える安全活動」に取り組んで行く所存ですので、皆様方の御指導を、よろしくお願い致します。



写真-1 手作り看板の作成

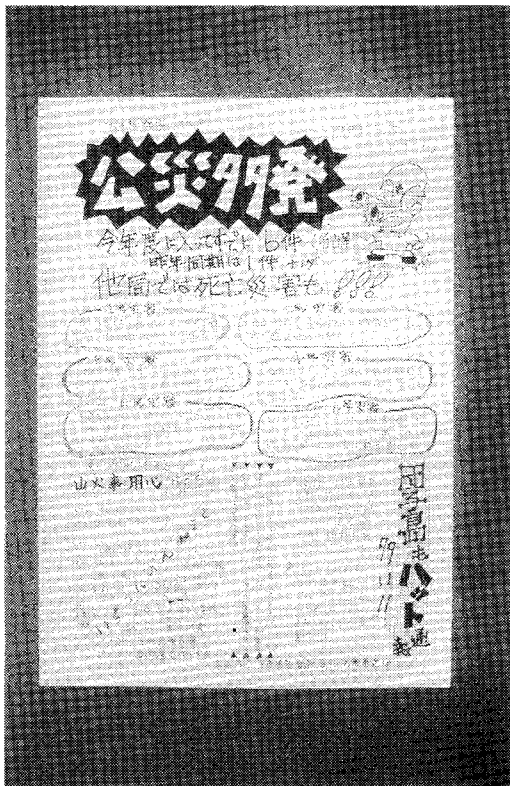


写真-2 団子島通信の発行



写真-3 ビデオの撮影状況